

大櫓跡から北西～北東を眺める

おおやぐら
大櫓などの建物を
想像してみよう！



©復元考証：山田岳晴／CG制作：松野有記／提供：株式会社碧水社



北IV-2曲輪から西を眺める



北の大堀切

域の北端には4つの堀切が作られています。最も大きい堀の深さは何メートルになるでしょう。人の身長から推測してみましょう。



北-VI曲輪の大櫓跡

北-VI曲輪には大きな土塁（どりい）があり、これを囲むように土塁（どりい）がめぐっています。くぼみのところは建物の柱を支える礎石（そせき）が残り、半地下式の7間（けん）×7間以上の大規模な建物があったと考えられています。どういう建物があつたのでしょうか。想像してみましょう。

北-V曲輪の虎口

枡形（ますがた）をもつ虎口で、門の礎石も確認でき、薬医門（やくいもん）という形式の門があつたことがわかりました。



主郭前面と虎口

調査によって主郭の周囲は石垣によって囲まれていたことがわかり、戦国時代にいち早く石垣を導入した先駆（せんく）的な城として注目されます。虎口は枡形をもち、その前面には高石垣が積まれています。石はあまり加工されていない石灰（せっかい）岩で、石と石の間に粘土を詰めています。



主郭南面の せきり 石塁と石段

主郭の南側の高まりは、以前は土塁だと思っていましたが、調査によって城の外側にも内側にも石が積まれ、石塁であることがわかりました。



南-II曲輪の 土塁と大堀切

南-II曲輪の南辺には大きな土塁が築かれ、その先は深い堀切があります。さらに先に続く尾根筋には7つの堀切が設けられています。



堀や土塁、虎口等の 遺構を見つけよう！

城は、曲輪という平らな場所と堀や土塁などを組み合わせ、敵から攻められにくいように工夫されています。城の入り口は虎口といい、鎌刃城では2つの虎口が確認できます。遺構を確かめながら歩いてみましょう。



眺望を楽しもう！

主郭、北-VI曲輪からの眺望を楽しみましょう。伊吹山、琵琶湖、湖西の山並み、小谷城、横山城、佐和山城などを見たすことができます。



滝の小道

林道の入り口から約600mの滝の小道を登りますと、鎌刃城の「水の手」取水口でもある青龍の滝に出ます。この間は大小数箇所の滝を見ながらの登り坂です。青龍の滝で休憩し、ここから鎌刃城まではほぼ水平の400mほどの道となり自然と歴史を満喫しながらハイキングができます。

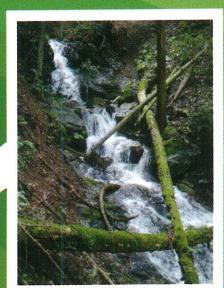


鎌刃城のみどころ

鎌刃城は、標高384mの山頂に築かれた、戦国時代の典型的な山城です。山頂の主郭と副郭という曲輪を中心に、北西の尾根、西の尾根、南東の尾根の三方向に曲輪や堀切や土塁が設けられています。城の規模は東西・南北とも400mに及び、湖北では小谷城に次ぐ規模を誇ります。

青龍の滝と水の手

最南端の堀切の崖下に青龍の滝があり、その滝口には城内に水を引き入れた水の手跡が確認できます。今は地域の人たちの手で滝から主郭まで水を引き込み、城の保全に活用しています。



青龍の滝
水の手